

健康長寿を実現する 住まいとコミュニティの創造



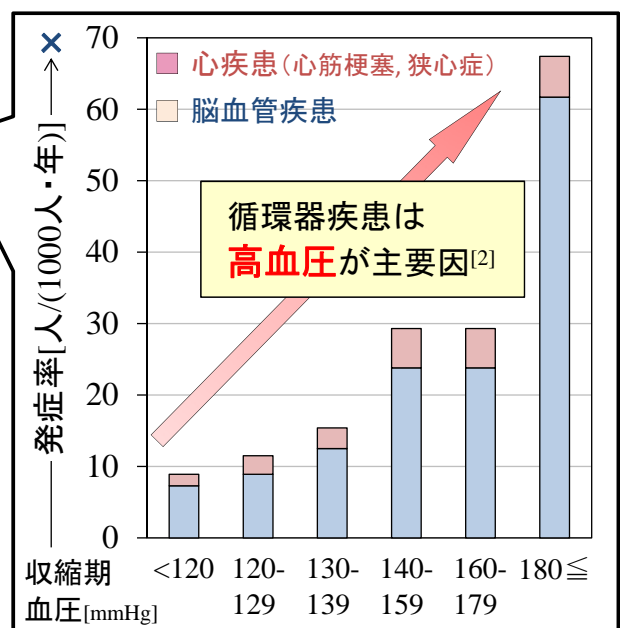
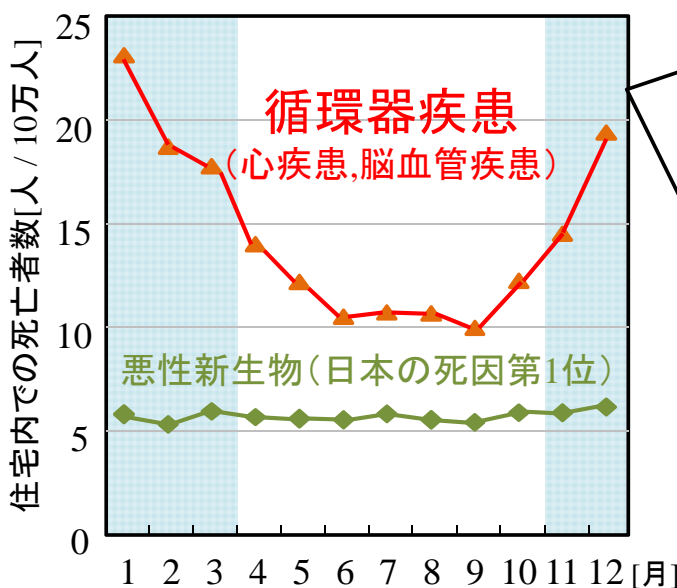
ホームページ: <http://ikaga-yusuhara.jp/>

伊香賀 俊治 (慶應義塾大学 理工学部)
 星 旦二 (首都大学東京 都市環境学部)
 小川 晃子 (岩手県立大学 社会福祉学部)

本プロジェクトが重要視する住宅の課題

“冬季に急増する住宅内における循環器疾患起因死”

住宅内での死亡者推移 (疾患別) [1]

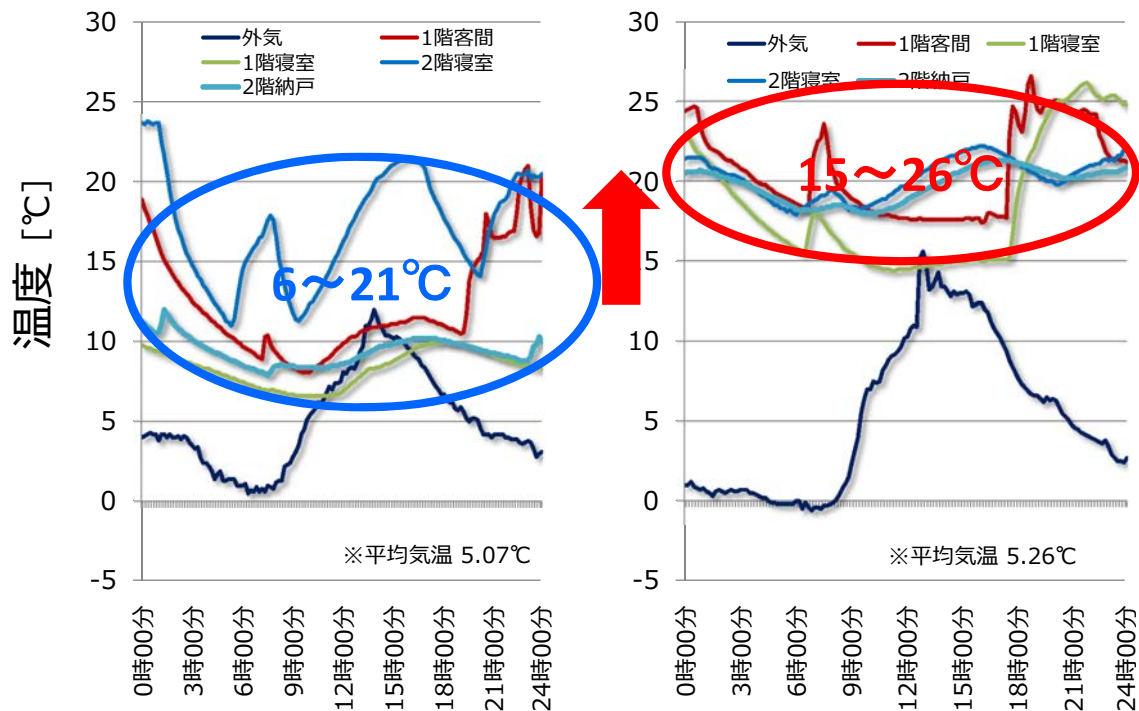


▶ **住宅内の温熱環境改善** による循環器疾患予防の可能性

[1] 羽山広文 他, 「住環境が死亡原因に与える影響 その1 気象条件・死亡場所と死亡率の関係」, 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009
 [2] H. Arima et al. 「Validity of the JNC VI recommendations for the management of hypertension in a general population of Japanese elderly - The Hisayama Study」2003

戸建住宅の断熱改修調査事例(高知市内、築37年)

“高断熱化によって、低い室温が大幅改善”



改修前 2013年1月10日(木)

改修後 2014年1月23日(木)

※こうち健康・省エネ住宅推進協議会と伊香賀研究室による共同調査
注) 改修前後で「2階寝室」と「2階納戸」の位置が入れ替わっている

寒さ解消に有効な“高断熱化”の不徹底

“高断熱化バリアを解消し、ゼロ次予防を推進”

■バリアの例

- (1)大きな自己負担: 戸建住宅の場合、
本来の建築・改修費に加えて百～三百万円必要
- (2)視認出来ない効果: 導入しても見えない部分・効果である故に、
敬遠されがち
- (3)低認知度: 冬、住宅内が寒いことは避けられない運命と勘違い、
省エネや健康維持増進の効果が認知されていない

「効果の見える化」や「体験学習」の展開によって
高断熱化等の優先順位を向上させることができる可能性



目指す社会像・研究開発目標

■（個人・地域単位）

個人像：住環境学習を通じた“住まい方改善”の実施
新築/改修の際に向けた“高断熱化”優先意識の醸成

地域像：個人像を定着させるための住環境学習機会の提供
住民が断熱改修等を検討した際の相談窓口の設置

- ・ 研究開発目標：
住環境学習プログラムの開発・定着 / 相談ネットワーク構築

■（行政・政策単位）

行政・政策像：住環境学習プログラムの全国37都道府県で展開中
住環境改善を支援するための補助金制度の導入

（国交省スマートウェルネス住宅等推進事業と連携）
住宅改修時の高断熱化に関する義務化

- ・ 研究開発目標：
開発プログラムの広報 / エビデンスに基づく政策提言

社会実装対象： 高知県梼原町

(1) 梼原町の概要 ※2010年国勢調査データ

- 面積236.51km²（森林率91%）
- 人口3,984人（高齢化率39.4%）
- 1,769世帯（高齢単身世帯率18.6%）
- ➡ 2014年7月現在の人口 3,693人
- 中心部の標高は約400mで冬季は積雪あり



(2) 梼原町で研究開発を実施する理由

- 住環境改善によるゼロ次予防推進の基盤づくりに着手
- 35年を超える「健康文化の里づくり推進員制度」
- 高齢化率が40%に達する中山間地域
⇒我が国の40年後社会を想定した実践的検証となる点
- 2001年度以来の町と共同での継続的な先行調査の蓄積を有する点

(3) 梼原町に関する特記事項

- 全国に先駆けた自然エネルギー利用の取り組み（風力、地熱、太陽光、木質ペレットなど）
⇒環境モデル都市として総理大臣が認証（2009.1）



開発目標①：住環境学習プログラムの開発・定着

モデル住宅での宿泊体験学習(2013/02/15 - 26)

モデル住宅 (栲原町下組)



参加者への説明



健康推進員等の住民の方(26名)に宿泊していただき、
温湿度や血圧等の測定値の比較によって学習



参加後のヒアリングを通して、プログラムの有効性を評価

その後PRを重ね、学習プログラムの定着を図った
・ 更なる定着に向け、
・ 民生委員等の地域の見守り実施者との連携も模索中



発展させた開発目標：能動的安否発信で健康長寿の実現

栲原町は高齢化の進む中山間地域
孤立防止は見守りが課題

既に導入済のセンサーや緊急通報システムは
異変把握の確実性に課題

能動型(自立支援)の
「おげんき発信」で確実な安否確認

栲原版おげんき発信

①高齢者は毎日「おげんき確認表」に
起床時の室温や血圧も記録

⇒「健康状態と居住環境の関連」を
自覚化

②見守る側として
民生児童委員と健康推進員の
ネットワークづくり

⇒福祉・保健が連携したコミュニティづくり



おげんき発信実施の様子

※2015年2月現在6名が実施中
・ 期間内に20名を目指す